

Title	振替価格選択に関する実証研究
Sub Title	
Author	小野誠一(Ono, Seiichi) 高橋吉之助
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1983
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1983年度経営学 第259号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001983-0259

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 小野 誠一

主査 高橋 吉之助

副査 奥村 昭博

所属ゼミナール 矢作 恒雄 研

矢作 恒雄

振替価格選択に関する実証研究

本研究の目的は、これまで学術的に体系化され議論され尽くした理論分野に比べ、これまで企業の実態に基づいた研究のほとんどなされていない振替価格の規定要因をアンケート・データによる仮説の検証を基に考察することである。

データとして、供給・受入両事業部の①市場成長率、②シェア、③競争度、④必要とされる資本支出、⑤外部販売による貢献度の五種類の値から振替価格決定の規定要因を探り出しそれがどう影響しているかを descriptive な形でとらえた。

分析結果から、企業の振替価格方式及びその選択要因が従来から研究されている理論面と表裏一体をなし、学問的成果を反映しているとは言い難い。両者の乖離は企業の環境条件、経営目標等を明確に定義、分類しうる理論面での仮定が企業の実像と必ずしも斉合性を持ちえないことによる。換言すれば、実務上では多くの要因が複雑に関連し、振替価格の選択基準も企業ごとに異なり、これを一般化するのは著しく困難であるか、現実から遊離するか、どちらかであろう。一人歩きしがちな振替価格の理論分野と実態調査に基づいて得られた実務上での振替価格選択の姿との対比をその乖離面にスポットをあて、両者の融合をどのように果たしていくべきなのかを考えてみたい。